

令和8年度 第1回全国理事会議事報告 記録

令和8年5月9日（土）
世田谷区立駒沢小学校にて

1 開会のことば 副会長 鹿児島県南さつま市立加世田小学校 岩 奈津子

本日は、全国から難聴・言語障害教育に携わる先生方が集い、全難言協全国理事会を開催できることを嬉しく思います。活発なご意見をいただき、各県にお持ち帰りいただけると幸いです。



2 会長挨拶 会長 東京都世田谷区立駒沢小学校 校長 鈴木 隆弘

ご来賓の方々をはじめ、全国各地からご参加いただきありがとうございます。指導の質を向上させ、全国どこでも同じ教育を受けられるようにするために、本協議会が果たす役割は、非常に重要であると実感しています。今年度も、皆様のお力をお借りして、本協議会が益々発展することを願っています。私も微力ながら、自分の立場でできることに尽力していきたいと思っています。

3 来賓挨拶

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 村上 学 様

貴会におかれましては、「一人の百歩より百人の一步」をスローガンに、障害のある子供たちのよりよい学びと育ちのためにご尽力いただいていることに感謝申し上げます。令和5年度、通級に通う児童生徒が初めて20万人に達しました。特別支援教育ワーキンググループでは、次期学習指導要領に向けて、重層的な指導・支援、困難さの背景に目を向けた指導内容や指導方法の工夫、通級による指導の教育課程の特例的な取扱いなどについてご議論いただいています。これらの議論を具体化し、子供たちの学びを充実したものとしていくためには、先生方の存在が欠かせず、その役割の重要性は増すものと考えます。貴会の益々のご発展をご祈念いたします。

東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課 主任指導主事 濱渦 孝治 様

本会におかれましては、創立以来きこえやことばに障害をもつ子供たちへの教育の発展に多大なる貢献をされていることに、深く感謝申し上げます。

特別支援教育を支えているのは、先生方の高い専門性です。本会においては、全国の教育を支える重要な役割を果たしていらっしゃるものと思います。奈良大会におかれましても充実したものになりますようご祈念いたします。

世田谷区教育委員会事務局支援教育課 課長 松見 径 様

長年にわたり、障害のある子供たちの学びを支え、通級指導教室や特別支援学級の運営、指導技術向上に多大なる貢献をされていることに、深く敬意を表します。指導の充実はもとより、情報保障に関わるICT機器の活用など、教育行政に課せられた課題は、より高度で専門的になってきています。この様な状況下で、本会の果た

す役割は重要さを増すことと確信しております。益々のご発展をご祈念いたします。

NPO法人 全国ことばを育む会 理事長代理 田嶋 恵美子 様

子供たちがのびのびと学びを深めている様子を伺い、嬉しく思っています。全国ことばを育む会は、「子供を真ん中に、親と教員が三人四脚で」をモットーに活動を進めてまいりました。昨年度は、岩手県において全国大会を開催させていただきました。コロナ禍以降、対面での活動が難しい状態が続いております。親の会においても、休会を余儀なくされている地域が増えています。今後も、先生方のお力をお貸しいただきますよう、よろしくお願い致します。

全国難聴児を持つ親の会 会長 小森谷 晴代 様

以前、埼玉県難聴学級に娘が通っておりました。振り返れば、母子ともに実り多い6年間を過ごさせていただきました。また、私自身も教員をしていて、難聴学級の担任をさせていただきました。本会の全国大会に参加させていただき、学ばせていただくことを毎年楽しみにしていました。今年度の奈良大会、来年度の青森大会も楽しみにしております。どうぞ、よろしくお願い致します。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部 総括研究員 滑川 典宏 様

この度は、全難言協全国理事会の開催おめでとうございます。日頃より、本研究所の諸事業にご理解いただきありがとうございます。今年度も、特別支援教育の発展のため、様々な事業に取り組んでまいります。お力添えをいただけると幸いです。

4 理事会出欠報告・委任状確認

5 議長選出・書記委託

議長	：	茨城県牛久市立牛久第二小学校	篠原 誠
書記	：	秋田県秋田市立中通小学校	高橋 晴美

【訃報について】 事務局長 吹野 佳朗より

小川再治先生が設立された小川再治研究協賛会の会長でいらっしゃった、小川昭子様のご逝去されたのご報告を受けました。長年、東京学芸大学で教鞭をとられた同学名誉教授 故小川再治先生の奥様です。全難言協は、毎年研究協賛金をお預かりし、研究活動に活用させていただいています。平成27年に小川再治先生がご逝去されてからは、奥様の昭子様に会長としてご臨席いただいております。コロナ禍以降は、ご高齢ということもあり昭子様のご出席は叶いませんでしたが、昨年の10月6日にご逝去されたとの知らせを受けました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

我々の活動を長年支えてくださり、難聴言語障害教育の発展に寄与されたこと、またご遺族のご意思で、今後も協賛金をお預かりし、研究活動を進めさせていただくことを各県で周知してください。

6 議事

- (1) 令和7年度事業報告 承認
- (2) 令和7年度決算報告 承認
- (3) 新役員選出 承認
- (4) 令和8年度事業計画案 承認
- (5) 令和8年度予算案 承認



【東京大会のお礼】 大会実行副委員長 阿部 厚仁

全国大会東京大会に、700名以上の先生方がご参加くださいました。全国の先生方が東京大会を通じて出会い、つながり、学びあうとても良い大会になったと思います。この感動が、奈良、青森、愛知へ繋がっていくことが、全国大会の醍醐味であると感じます。ありがとうございました。

(6) 令和8年度第55回全国大会近畿大会についての概要説明・大会宣言案

大会実行委員長 奈良県奈良市立椿井小学校 校長 鍵田 幸男

大会実行委員 奈良県奈良市立大宮小学校 田中 音楽

令和8年8月6日、7日に、なら100年会館にて近畿大会を開催いたします。近畿地区として受けさせていただいていますので、奈良県のみならず、近畿の先生方と協力して開催します。各府県の取り組みを提案させていただき、皆様のご意見を交わしていただければと思います。記念講演は、特総研の山本先生に、レクチャーは、本校のきこえとことばの教室の卒業生にお願いしております。ご参加をお待ちいたします。

大会宣言案 承認

(7) 令和9年度第56回全国大会青森大会についての挨拶・現状報告

大会実行委員長 青森県青森市立長島小学校 校長 山下 征子

大会実行委員 小鹿 真紀子

令和9年7月29日、30日、リンクステーションホール青森にて青森大会を開催いたします。記念講演は、ノートルダム清心女子大学の土居先生に、レクチャーは、小玉有子先生とご子息であるARTIST GOMA氏にお願いしております。GOMA氏は、発達障害の当事者でいらっしゃいます。当事者と保護者の視点からお話をいただきます。棟方志功の母校である長島小学校には「汝我志磨（ながしま）」と書かれた書が寄贈されています。お互いに志を磨いてほしいという棟方志功の願いが込められています。青森大会が、志を磨き合う充実した場になるようにと思っています。

(8) 令和10年度以降の全国大会について

令和10年度は東海ブロックの愛知県で開催します。

愛知県での開催について 承認

- 7 議長・書記解任
- 8 参加者自己紹介
- 9 委嘱状の伝達



10 協議

(1) 国の特別支援教育施策について

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 村上 学 様

学習指導要領の改訂の動向についてお話したいと思います。インクルーシブ教育システムの充実に向け、合理的配慮の提供を含め、障害のある子供たち一人一人の教育的ニーズに応じた、質の高い特別支援教育が求められています。そのような中、特別支援学級や通級による指導においては、特別の教育課程の質の向上、自立活動の充実が必要です。

特別支援学級や通級による指導における主な課題としては、増加している情緒障害や発達障害等の児童生徒に対して、十分な配慮が行き届いていない状況があること、一人一人の児童生徒の障害の状態等を十分に考慮せずに画一的な指導を行っている学校があるということなどがあります。今日は、次期学習指導要領に向けた具体的な方向性について、難聴言語障害教育に関連のある以下の2点に特化してお話しします。

① 通級による指導を受ける児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒に対する、障害種ごとの配慮事項について（令和8年4月21日 第8回特支WG）。

教師の障害に係る正しい理解や認識の下、困難さの背景に目を向けた指導の実現を図るため、教育活動全般にわたる配慮事項を、障害種を超えた共通的な配慮事項と、障害種ごとの配慮事項の2つの観点で示してはどうかとされています。また、これら2つの観点について、それぞれ具体的に以下のような3つの項目が挙げられています。

- (1) 共通的な配慮事項 : デジタル学習基盤の活用
共に学ぶ環境下での児童生徒同士の理解
個々に応じた環境調整
- (2) 障害種ごとに示す事項 : 情報の入力・思考
思考の出力
学校生活全般

② 通常の学級に在籍する障害のある子供たちが通級による指導を利用する場合の教育課程の特例的な取り扱いについて（令和7年12月23日 第5回特支WG）。

本来、通常の学級においては、特別な教育的支援を必要とする児童生徒を念頭においた学級づくりをする必要があります。したがって、個別的な対応や支援策を講じることなく、障害の状態等を踏まえた対応を通級による指導に任せるのではなく、まずは、学級づくりをベースに、困難さに対する指導の配慮をしっかりと行い、

その上で、障害による特別な指導が必要な場合は、通級による指導を受けるという考え方が求められます。（重層的な指導・支援）

また、通級を利用する児童生徒の主たる教育の場は、あくまで通常の学級です。障害の程度が特別支援学校の就学に相当する児童生徒が、通常の学級で学ぶケースもあります。中には、障害の特性により、内容や単元によって障害のない児童生徒と同一の内容や進め方では学びが難しい場合もあることから、よりきめ細やかな指導を行うため、通級による指導で各教科を取り扱えるようにしてはどうかと示されています。

ただし、あくまでも自立活動の指導を行うということが大前提です。また、各教科の指導を行う場合は、内容の一部を取り出して指導するのであり、内容の全部を取り出すことは想定されていません。さらに、こうした特例的な取り扱いをするにあたっては、設置者の定めるところにより適切に運用されるようにしてはどうかとされています。

【情報提供】

- ・ 聴覚障害のない児童生徒が手話に興味をもつことができるように、理解啓発動画を作成しました。教育委員会を通じてご案内いたしますので、ご活用ください。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbBa99pVfpsB01D2TRhwX5-c>

- ・ 日本学校保健会が、「難聴の児童生徒への聞こえの支援」という冊子を作成していますので、ご活用ください。

<https://www.gakkohoken.jp/books/archives/284>

（２）国立特別支援教育総合研究所より

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部

総括研究員 滑川 典宏 様

新しく青木理事長が就任し、新しい視点で第６期の活動を進めていきます。

今年度は、国の特別支援教育政策の推進、教育現場の喫緊の課題に対応する研究として、障害種の枠を超えて組織的に進める横断的な研究がスタートしました。インクルーシブ教育システムに関する研究、通常学級に在籍する児童の指導支援に関する研究など、４つの研究が５年に渡って開始されます。

また、昨年度の言語班セミナーには、対面８０名、オンライン１０００名を超える方にご参加いただきました。今年度もセミナーを開催したいと思っておりますので、後日情報を発信します。

今年度、５年に１度の全国調査を実施しますが、今回よりオンラインでご回答いただくこととなりますので、ご承知おきください。

来週の月曜日から第１期専門研修がスタートします。今年度からは、二期制となります。全難言協の先生方に講師等の依頼をすることがありますのでご協力ください。

特総研では、様々な特別支援教育リーフを作成したり、メルマガを配信したりしています。今後も皆様との繋がりを大切にしていきたいと思っております。

(3) NPO法人全国ことばを育む会 理事長代理 田嶋 恵美子 様

昨年度、岩手県で全国大会を実施し、589名のご参加をいただきました。コロナ禍以降対面での活動が制限され、関係が途切れてしまった支部が多いです。先生方のお力で、通級に通う児童、生徒の親同士のつながりを作っていただけると幸いです。会報誌で吃音の特集を組んだ際、当事者の学生と出会いました。自分の話しにくさに「吃音」と名前がついていることに、大学生になって初めて知ったとのことでした。保護者の方も気付いていらっしゃったでしょうが、通常学級の保護者の輪の中で話しても、分かってもらえないのではないかと、そのままになっていたとのことでした。だからこそ、不安感なく話せる親の会という場が大切であると考えています。「子供を真ん中に、親と教師が三人四脚」ということで、今後も活動を続けて参りますので、先生方のご協力よろしくお願いいたします。

(4) 全国難聴児を持つ親の会 会長 小森谷 晴代 様

全国難聴児を持つ親の会は、ことばの教室の設置を増やすため、保護者の声を行政に届ける目的で発足されました。ことばの教室の設置が増えてきた昨今、段々親の会や会員数が減少してきていますが、決して無くしてはいけなくと考えています。今後、対象を聴覚障害全体に広げていくために、「聴覚障害児を持つ親の会」に名称を変更する予定です。

昨年の特別支援教育ワーキンググループのヒアリングにも参加させていただき、要望をお伝えさせていただきました。専門知識のある先生が増えてほしい、ST等の専門家による支援を在籍校で受けたい、個別の支援計画について周知を徹底してほしい、働く保護者向けの支援と、地域格差の問題を解消していただきたい等、保護者の思いをお伝えしました。保護者や先生の意見を行政に伝えていくためにも、今後会員を増やしていきたいと思っています。

(5) 各都道府県の難聴言語教育・特別支援教育に関する情報交換 一部抜粋

① 活動の状況

- ・ ブロックに分かれて研修をしているが、ブロックごとに格差がある。
- ・ 県内で大会を行なっている。
- ・ 研究会の参加者は増えたが、事務局はある小学校の教員4名で担っている。
- ・ 自閉情緒部会と合同で研修を行っている。
- ・ 通級指導担当、難聴学級担任、支援学校担任になって初めて研究会の存在を知る先生が多く、会の意義を感じる前に異動してしまう。
- ・ 研修に、新担当分科会がある。
- ・ 研修会の回数は多いが、参加者が少ない。
- ・ 旅費の削減の流れがあり、休暇をとって参加する方がいる。
- ・ オンライン研修が増えてきている。
- ・ 代表研究員を募って、複数の研究会を行っている。
- ・ 特総研と連携した研修を実施している。
- ・ 設置校長向けの研修会を実施している。
- ・ 専門研修を受けたことのある教員が減ってきている。

- ・ ベテラン教員が増えてきている。新人にアドバイスできる会を設けている。
- ・ 県独自で「はじめのいっぽ」を実施している。
- ・ オープンチャットで情報共有している。
- ・ 研究会の人数が増えていますが、発達障害通級の方が多い。
- ・ 教材・指導法交流会を実施している。
- ・ ベテラン教員の授業を参観する機会を設けている。

② 研究組織の持続可能な運営方法について

- ・ 業務のスリム化が必要である。
- ・ 負担金の支出が難しい自治体が出てきている。規則を一部改変した。
- ・ 人材の育成と組織運営の安定を両立させる仕組みが必要。
- ・ 設置校が減ってきていることから、県の難言組織の改編を進めた。
- ・ 自分たちで負担金を集めていたが、昨年度から無くした。
- ・ 各活動の輪番化を進めている。
- ・ 研究収録は印刷製本を取りやめ、PDFで配布した。
- ・ ホームページで難言についての資料を配布している。
- ・ 研究組織の運営において、デジタル化を推進している。
- ・ 会場費の削減や、遠方の先生にご講演いただくために、研修のオンライン化を図っている。
- ・ 運営について管理職や教育委員会、指導主事に知ってもらうための会を開いている。
- ・ アンケート集約などはAIに任せている。
- ・ 県内のつながりの強化を図る目的で、SNSを活用している。
- ・ 資金がなく研究会の解散を考えたこともあったが、資金の提供元が確定したことにより安定した。
- ・ 非常勤の担当が増えてきている。異動に配慮していただくよう教育委員会に働きかけている。
- ・ 事務局校を定め、そこに異動した教員が事務局長を務めることになっているが、負担を減らすよう役割分担をしている。

(6) 令和8年度全難言協事業の説明

庶務会計部 : 負担金の納入ありがとうございます。

納入校、市町村が分かる名義で振り込んでください。

研究部 : 「はじめのいっぽ」の対象年限を6年目までに広げました。

調査・対策部 : 10年以上変化のない調査項目を削減しました。

全国理事名簿を見ると、全体の30%の都道府県が全難言協に理事を送ることができなくなっていることを踏まえ、第2部の調査を行うことになりました。調査内容について、各都道府県の意見を聞きたいと思いますので調査にご協力ください。

また、調査結果について都道府県名を公表していませんでしたが、今後は公表したいと思っていますので、周知をお願いします。

広報部 : 会報、機関誌の発行をしています。全国大会のお知らせについて、会報に2ページほど掲載していましたが、近年情報量を増やす目的で、別刷りして同封することもあります。その場合の印刷費用については、各大会実行委員会もちとなることをご了承ください。原稿の執筆についても、引き続きご協力ください。

情報ネットワーク部 : 今年度中に全難言協のホームページを刷新し、アドレスが変更となる予定です。

(7) その他

本日の資料については、ホームページにパスワード付きで掲載します。
記録もホームページに掲載します。

1 1 事務連絡 事務局長 吹野 佳朗

調査を始めて30年間、経験年数の浅い教員が多い現状は変わりません。昨今、理事が出せない都道府県が増え、研究組織がない都道府県もあります。このような現状を、ぜひ広く周知してほしいと思います。

1 2 閉会のことば 副会長 岩手県一関市立一関小学校 牟岐 茂里雄 様

ご来賓の皆様、都道府県理事の皆様におかれましては、ご多用の中ご出席ありがとうございました。各都道府県の現状を対面で共有できたこと、繋がりがもてたこと、とてもありがたく思います。この会を開いてくださった事業部員にも感謝いたします。ありがとうございました。

(文責：広報部)